清水道中金毛草鞋 十四

越後行脚

逍遥文庫
文庫6
1004
14

文庫6
1004
14

方言修行金草鞋

去る安政癸酉甲戌夷ぶ漂きて此重芽鞋を編み
と梓行し祥ふしてよふ紛き其後と嘱る人ありて
ゆるせ七年奥羽の北方と編して書肆浦安堂
頻ふせむ乞ふ原ふ平ぶ不安内の地ゆれを学ん来
ゆ仍く玄林越後行脚の北方ゆきまく金草
鞋ふ寄て此春乃新板ふ沢

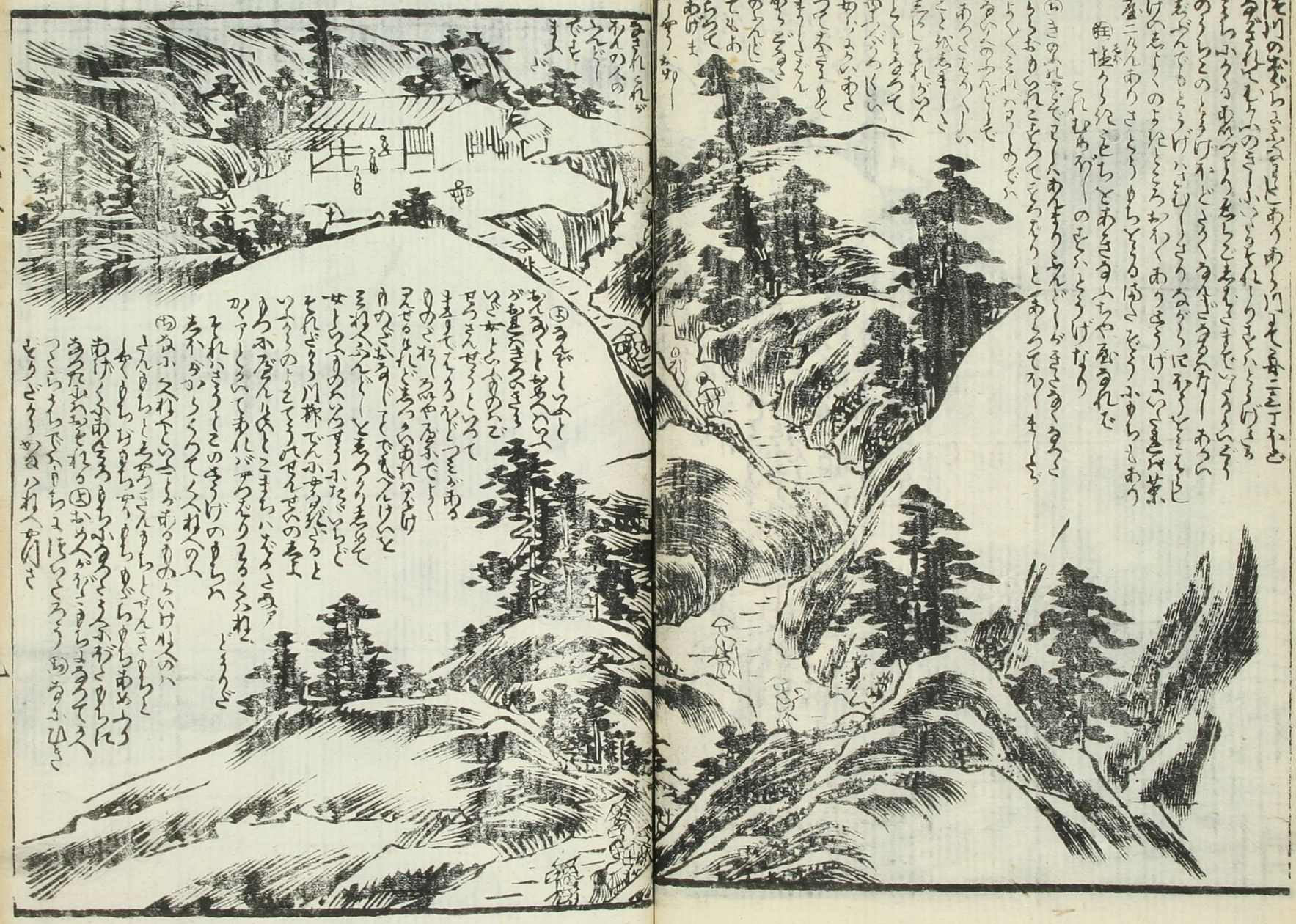
十返舎一九題

さて山さしは奥及長川の彩色鼻毛の延ふ平久言伝あ人法ふ出見物の滑稽
なり七変ふふ東武の隆士下ふの撲ぬ一ふと日乃一ふ言より洋性
南部のくさ行脚のふもき該又ふ仕産より今味
ふ出を言てふ戦ぶ法一見の弗ふれと言ふ作者ふ年
一見の地ゆれば見ふのくふきとふ仕探ふ伸ふるもの紙ふ

會津若松
萬金物品々
小間物問屋
若松の町

塔寺
舟戸

八田
焼山



湯口

湯口の山と旅人

新谷

編木

宮本

柏崎山
瓢宅

やひこのまちとうちすぎてなたどりくこりゆきててらぢりとしてかーふいくろこころよれまちつきなり

(注)あくがかさ　おーし　おろ

いざとうだ　ゆ　ちゃん　ら泊まで

それようこのしゅくとうちゃくこりゆきて山田のまちこそ

(注)きをつけゆかさこのぐうこれと　見えれまちぬれまの山田

きえんのころゆさ

(上)「ーとてもかこうふまれかうこう

「きのこりこわーんまちつこそてつくこそてあろうまちまーしおもてむせくふるまむこりのこよくこれどうーぢあーでんえこくこのわーこまちあができこーこいこ

「こさあれもこそこさくこてこうこくこくこく

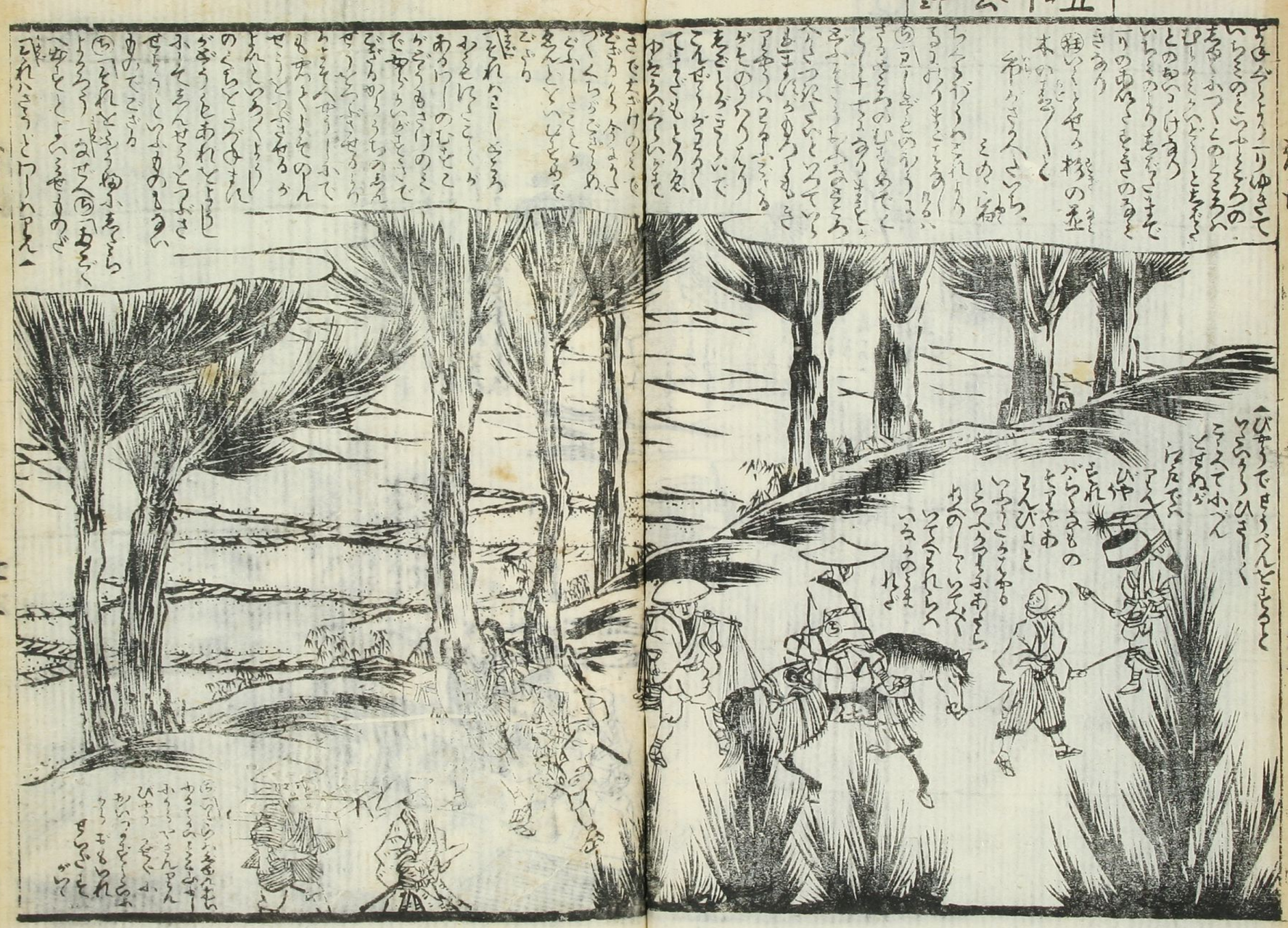
双峰金ケ峯

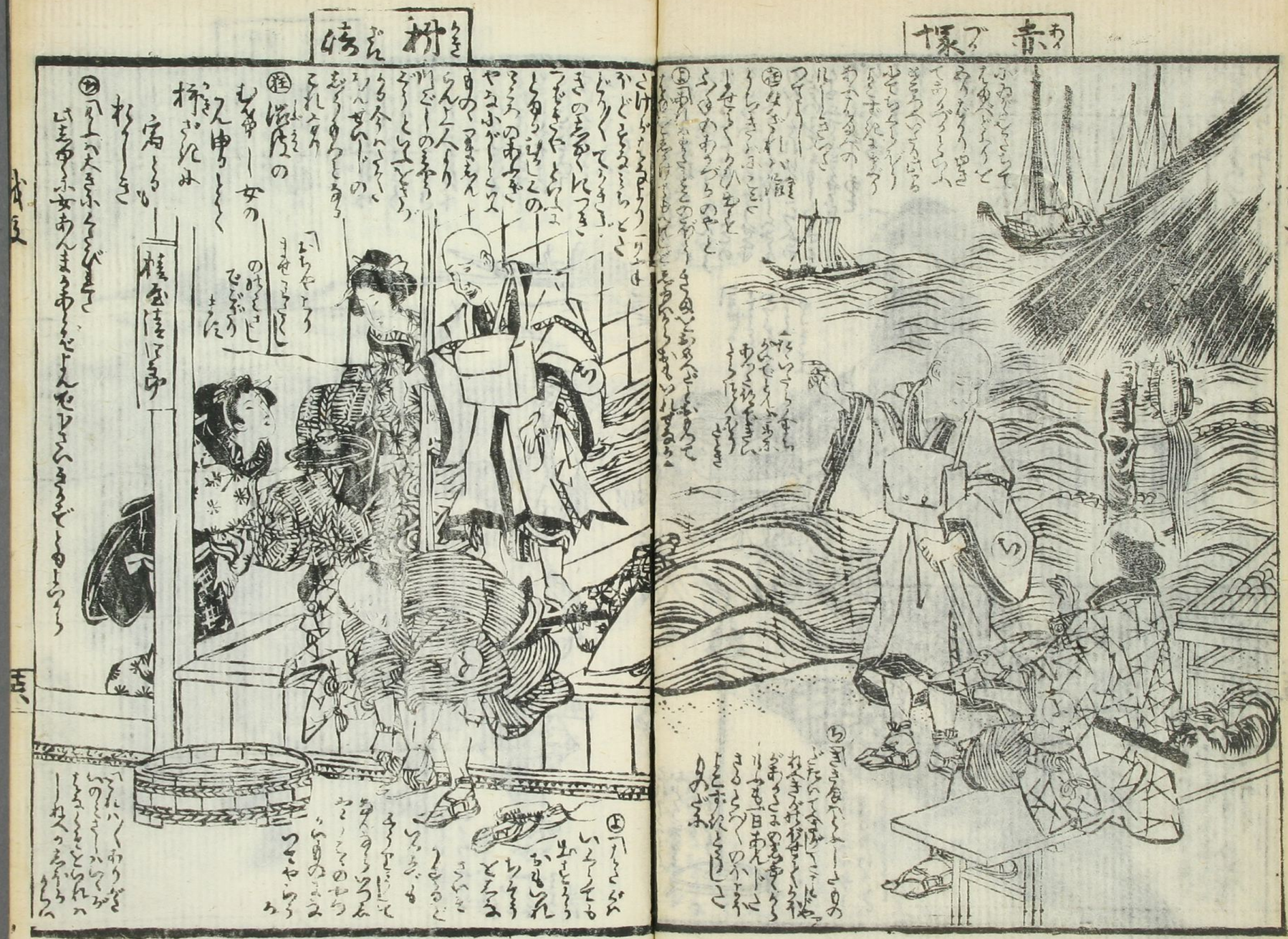
与板

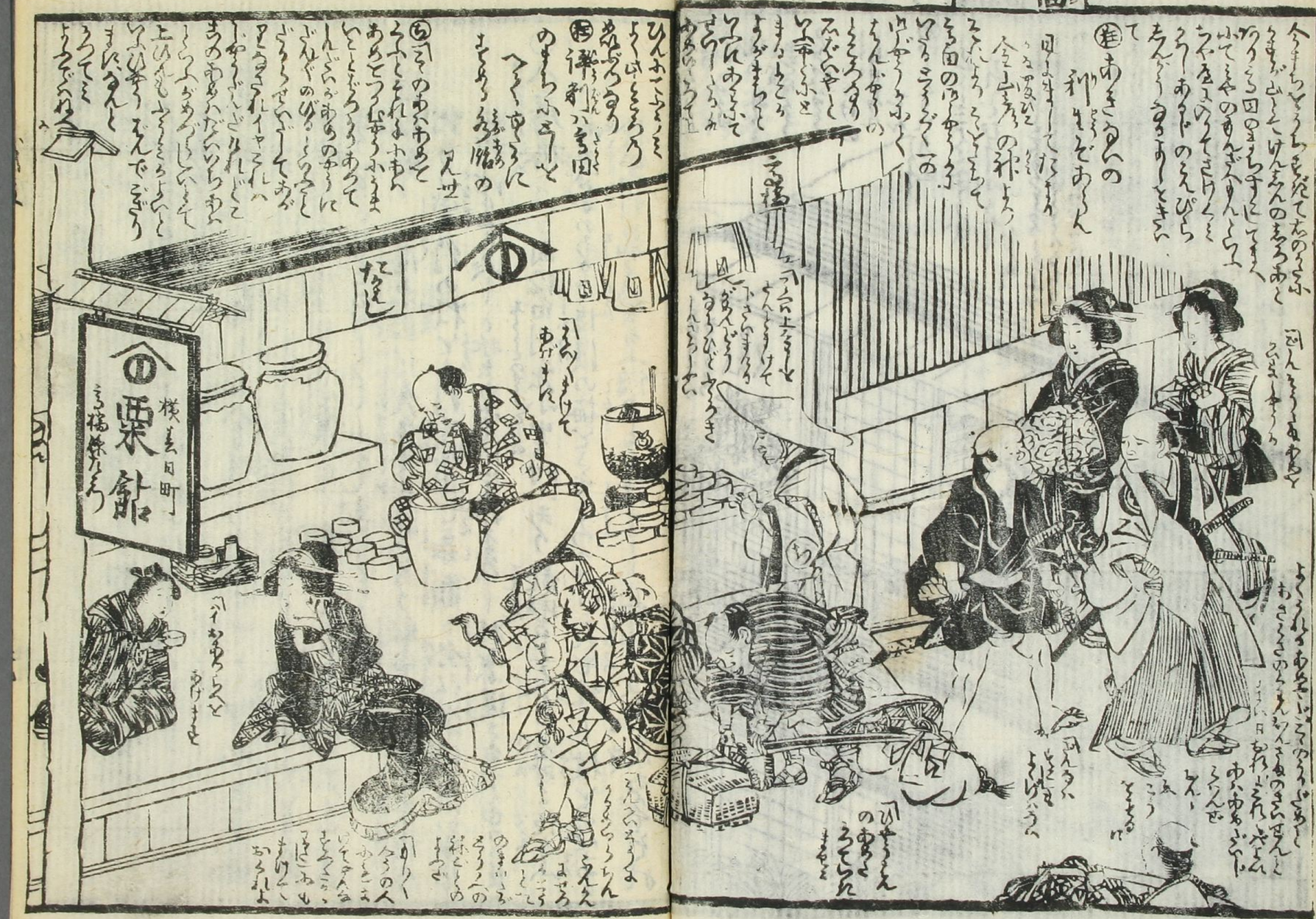
長岡

上除

赤谷






高田
栗飴
横丁玄日町

當國七不思議之内

○臭水の油　如法寺村ふあり常ふ的取て燈油とす
天智天皇の七年越路より油を新ふ代ゑき水たとなるゝあれを
そあつ是なり

○迦羅国波之火　備前邪入方村こあり火地中ふ出る今武蔵の国
炉裏のうちふ在て火と出ると雖ども火地の底火くゝ
物焼ども盛ふ陽のゝ奈集ゝ光ゝ地の底火くゝ生ずとゝ成ゝ

○逆柳　備前邪小豆島ふあり観音上人三年座位の
地ふ逆竹の杖とゆ刺て地ふさし給ふ勧る会仏宗仏をふかゝ
山竹活生ゝ

○八房梅　同郡白川庄小岩村ふあり観音上人ゝ座位ふ住ゝ
村民家のゝ前ふ植ゝの梅とゝてゝ枝と花ゝ
捨竹の如くゝ枯ゝ行のゝ活生ゝ其枝一枝ふ八房あゝてゝ

味ひ甚ゝ美ゝ俗ゝこれを八房ゝ云ふ来係小海住ゝ今ゝ尊ゝ

○三度栗　同郡上野ゝ東ふあり観ゝ上人ゝ枯栗ゝ生ゝ
ゝ葉ゝ出ゝて秋法ゝ度ゝ葉四ゝ枯栗再生ゝ度ゝ行ゝ
ゝ不日ふ芽ゝ生ゝ今栗林ゝ有ゝ毎年ゝ度ゝ実ゝ成ゝ

○弘智法印の拓像　三河郡中嶋村海ふ弘智院ふあり法
印ゝ姓小玉氏下総の人ゝ尊ゝ国大浦の墓ゝ花ゝ小経ゝ負治ゝ
卯十月二日山岩上ふ寂ゝ合掌の内ふ飛腐ゝ今ゝ存在ゝ
堂ゝ建てゝ礼ゝ尊ゝ

甚外　川越ゝ名号　仮獣目　五編ゝ霊昊等寺あり

平安秋七月京都ゝ伝ゝ若ゝ光ゝ編ゝ庫ふ越後ゝ国ふ出ゝ
ゝ名ゝ清長国出ゝ侍ゝ新潟新発田ゝ行ゝ今ゝ出ふ国ふ出ゝ
見ゝ宝ゝ

今書雖沛東京板ゝ金の草鞋の続筆ふ編ゝ者ゝ不ゝ尊ゝ

十返舍一九編
一圓齋國丸画

早稲田大学図書館
011688991937